

※ 一定期間、『気になるペットニュース』とは、別枠で掲示させて頂いておりました

2007年10月14日、東京都内にて、毛皮反対デモ行進が行われました。
中国で、生きたまま手足を切断し、毛皮を剥がされ続けているタヌキ、虐殺されている
犬や猫、ウサギたちのために行われた活動です。

これからご紹介するのは、特定非営利活動法人・アニマルライツセンター・東京の
管理・主催となっている(上記デモ行進含む)、2004年から2005年1月にかけて、
中国河北省で毛皮生産現場が調査された内容を収めたサイト内容になります。
毛皮を取るためだけに飼育され、殺される動物たちの実情を、ビデオと写真、そして
詳細な報告書にまとめてあります。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

※ページより引用

動物たちは、地面に叩きつけられ踏みつけられた後、**生きたまま皮を剥がされます**。
多くの場合、**皮を剥がされている間、動物たちは意識があり**、もがき苦しみます。
また、皮を剥がされて5分から10分、体を起こしたりする行動、まばたき、鼓動を確認
することができます。

日本は世界有数の毛皮輸入国であり、そのほとんどがこの中国からのものです。
たとえ「イタリア産」と表示してあっても、元の毛皮が中国から輸入され、イタリアで製品
加工された場合は、最終製品に「イタリア製」と表示されます。

毛皮の付いた製品を買うことで、知らない間に多くの善良な日本人が、これら残虐な
行為の**スポンサー**になってしまっています。

ビデオを見て、現実を知ってください。

毛皮を買ってこの動物たちの苦しみにお金を払うのか、毛皮を買わずにこの動物たちを
苦しみから解放するのか、私たちは選択することができます。
彼らの運命を決めるのは、あなた自身です。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

ペットに使われているおもちゃの毛皮なども、そのひとつであり、毛皮を取る目的
だけで動物たちを殺す、そんな非道徳なことに加担しない、毛皮を買わないよう
訴えかけます。

“そのおもちゃは何で出来ていますか？ 毛皮のおもちゃを買わないで！”

極めて残虐性のある、動画を含む内容を、当店のようなサイトで紹介すべきなのか、かなりの検討を重ねましたが、むしろ当店のような立場だからこそ、多くの方に実態をお知らせする使命があるのではないか、という結論に至りました。
心より深くご理解を賜りたく思います。

<あとがき>

15分のフル・ムービーを最初に拝見致しました。
私は、何十年ぶりか、声をあげて号泣しました。
子供のとき依頼かも知れませんが。
隣りにいたクリアさんが、目をまんまるくして、びっくりしたように、また心配そうに、私の顔を覗き込み、頬をつたうものを舐めます。
私がこのような状態になっているのを、彼女は初めて見たからでしょうか。
この歳になって、このような感情にかられるとは、とうてい思いも及ばないことでした。

私たちは、食べるために牛や豚、鶏を育て、殺します。
私の母の実家は岩手の農家で、鶏を飼育していました。
祖父は鶏を食するために殺す時、鶏を逆さに釣るし、首の根元を一瞬で切り、ぎゅっと押さえたまま、ゆっくり血抜き(血を下に落とす)するそうです。
鶏は、ほぼ即死状態で、暴れることはなかったようです。
ある時、母の姉が泣きながら小学校から帰って来ました。
隣の、同じ鶏を飼育している家が、鶏を殺す際、完全に首を切断し、それでも暴れていて、首のないまま庭を駆け回っていたのを目撃したようです。
小学生にはとてもショッキングなことで、しばらくは食事が出来なかったと聞いています。
“父ちゃんは殺し方が上手かったんだ”
食べるためには仕方がないが、苦しませないで調理をする、ということを私は教わってきました。

何かの言葉でありました、
“食べる ということは そのものの命を 頂く ということ”
頂く側は、常に謙虚でなければなりません。
そして、そのものに対して、決して感謝の気持ちを忘れてはならないのです。
その恩恵を受ける私たちの姿勢を、常に考え説いていかななくてはならないのではないのでしょうか。

毛皮は、娯楽です。
しかしながら、毛皮の歴史は古く、ある意味、文化でもあります。
が、やはり、生きていく上で、必ずしも必要なものであるとは言えません。
消費者、一人一人の意識を変えることで、やがて大きな結果を産むものだと、
私は信じてやみません。

倶楽部クレーラー: 代表
林 佳樺

『毛皮は必要ですか?』



文章での内容で、
残虐な画像などはありません
一般の方のサイトになります

『毛皮は動物のもの』



詳しい文面での内容と
実際に海外メディアで取り上げられた、
悲惨な映像が入っているページです

『中国毛皮養殖場の内側』



号泣に値する、とてつもなく
残虐な動画が、15分入っています
とても、人間のすることではありません！
小さなお子様の閲覧には
十分ご配慮願います

いずれも、バナーをクリックして、すぐに動画が出るものではありません。

※『毛皮は動物のもの』、『中国毛皮養殖場の内側』は、[特定非営利活動法人アニマルライツセンター](#)の
主催・管轄サイトとなります。
また、メディアで取り上げられた映像のナレーションは、デザイナーのステラ・マッカートニー
(ポール・マッカートニーの娘)で、字幕入り。

続編では、
『マッカートニー、中国に激怒！～北京オリンピックをボイコット～』
を、お送り致します。

2005年3月16日
中国の毛皮動物養殖現場の実態・告発映像 ・ より抜粋

欧米では、多くの人々にとって、「毛皮を着ることは恥ずべきこと」という認識が広まりつつありますが、依然として毛皮は巨大なビジネスであり、毛皮動物のブリーダー・養殖業者・輸出入業者・卸売業者・小売店・デパートなど、毛皮に関わる業種は数多く存在します。

しかし従来、その現場でどのような飼育方法と屠殺方法が採られているのか、その実態を知る人はほとんどいませんでした。

2005年2月、匿名のアジアの動物保護活動家によって、その映像が公開されることとなりました。

この映像を公開するにあたり、スイス動物保護協会(SAP)代表、ハインツ・リーンハードはチューリッヒで行われた記者会見で、この撮影者の勇気ある行動をたたえるとともに、**国境を越えて、たくさんの人々に、この事実を知ってほしい**と呼びかけています。

動物たちがどのような一生を強いられ、どのように死ななければならなかったかについて、毛皮を着ようとする全ての人が、「**それらを知る義務がある**」と述べています。

～ [“続・惨劇！毛皮産業の実態”](#) ～へ つづく